



小松SSHだより

石川県立小松高等学校

第9号 H22.12.28
編集 : SSH推進委員会
発行責任者 : 早川弘志

★★★★★ 科学的探究力、人間力、自己表現力、国際感覚の育成をめざす ★★★★★

石川県SSH生徒研究発表会

日時 : 平成22年12月17日(金) 13:00~16:30
場所 : (財)石川県文教会館ホール(金沢市尾山町)
参加者 : 小松高校、金沢泉丘高校、七尾高校の1・2年理数科生徒約240名
(来賓) 金沢大学教授 伊藤秀一氏、末松大二郎氏
金沢工業大学教授 松石正克氏
科学技術振興機構中日本主任調査員 吉田崇雄氏



県内のSSH指定校の3校が集まり課題研究発表会を行いました。各校の校内選考会で選ばれたグループが10分の持ち時間で研究成果を発表し合うもので、今年で16回目となります。本校からは3つのグループが発表しました。

海外研修発表部門では、韓国大田科学高校で英語発表を行う「素数とRSA暗号」のグループが英語での要約発表を行いました。このあとすぐに韓国に向けて出発するという意気込みが感じられる、堂々としたすばらしい英語発表でした。

課題研究部門では、本校から2グループが「ウィルバーフォース振り子の研究」と「レインボー植物をつくろう」をテーマで発表しました。両者とも10分間の持ち時間をいっぱい使い、練習も十分にこなしていることがわかる発表で、質問にも的確に堂々と応答していました。

前半は、七尾高校や金沢泉丘高校の生徒たちから質問がたくさん出ましたが、後半は小松高校も質問がたくさん出て、盛り上がりのあるすばらしい発表会になりました。3人の先生方の講評では、「どの発表も十分時間をかけた発表で興味深いものばかりであった。ファーストステップの質問者にもわかりやすく説明をされていて質疑応答が大変面白かった」「大学での学会発表を聞く機会が多いが、今日の発表態度は大学生と比べてもてきぱきと質問に答えていて立派であった」とほめていただきました。

また、多くのアドバイスもいただきました。「研究で自分は何を知りたいのかを明確にし、知ろうとする意欲を持つことが第一である。」「数物系のことはすべて、どこかで深く絡み合っていることが多い。」「今日の基礎的な研究と最先端の研究が結びつくことがある。」「テーマと関連のない素朴な疑問が出てきてもその疑問を大事にしてほしい。研究結果が成果ではなく、思いもよらなかった疑問から新しい発見につながるものがほとんどであるから、今後の課題は枠にとらわれる必要はない。そういうものも書き留めておくことは大切なことである。」「普段の学習は受け身の知識であり、活かしにくい。課題研究のグループ学習は観察・実験・文献調べ、グループ内で討論し合うといった能動的な活動なので人間力というものをつけて大いに知識を活かしてほしい。」など、未来の科学者・技術者としての研究の心構えを教えてくださいました。理数科の1年生、2年生にとっては、今後の学習の取り組み方について多くのことを学ぶことができた一日でした。

なお、今回、各校のすべての課題研究発表をポスターにして掲示し、参加者に見ていただきました。

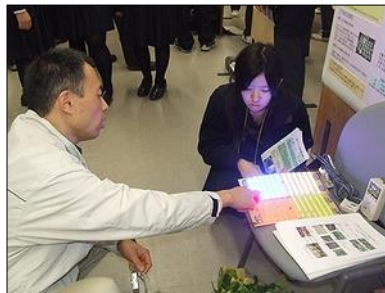


SSHコンソーシアム鹿児島 —「ダイコン多様性研究」に関する研究会—

12月17日（金）～18日（土）に鹿児島大学理学部で行われた第2回研究会に、本校からは生物部の生徒2名が参加しました。

ポスターセッションには連携校20校から合計25本の研究がエントリーし、2つのグループに分けて前半と後半でそれぞれ55分間のポスター発表が行われました。本校は2本の研究テーマについて、栽培した源助ダイコン、守口ダイコンおよび作成したLED発光板を見せながら発表を行いました。

運営指導委員による審査の後、11校の「特別賞」とその他「奨励賞」の表彰が行われました。本校は日ごろの努力が認められ、「特別賞」を受賞しました。



《参加生徒の感想》

- 初めてダイコンコンソーシアムの研究会に参加して緊張したが、大変良い経験をした。人前で発表すること、その発表をわかりやすく説明することの大変さを知った。アドバイスなどをしっかりと聞き取ることができたので、今後につなげたい。今後の課題が見えたので、これからはがんばっていきたいと思う。また、参加前の準備において計画的に観察を続けることが大切であることも分かった。これからは計画的に観察し、そして、他の部員とも協力していきたい。現地に赴いて、自分たちだけでなく、他にも同じような研究をしている人々に会えて、いい刺激になり、そして何よりも元気が出た。自分たちだけが辛い思いをしているのではないことを知って、今までより研究が楽しくなったと思う。次の発表である3月までもう時間はないが、頑張っていきたいと思う。
- 今回初めての研究会参加だったのでとても不安でした。でも、思ったよりも楽しかったし、良い経験になったと思いました。全国の高校生の研究発表を見たり、大学の先生たちと交流することはなかなかできないと思うので貴重な時間になったと思います。また、全国の高校の研究を見ると、すごい時間をかけてやっている学校もたくさんあって、良い刺激になりました。私たちがもっと良い研究ができるように頑張りたいと思いました。

第12回いしかわ高校生物のつとめ

12月12日（日）に金沢錦丘高校で行われました。この大会は平成11年から実施されていて、石川県内の高校生を対象として、生物部、課題研究、個人研究の研究発表に、ワークショップ、講演会を加えた大会です。本年度は、金沢錦丘高校、金沢二水高校、七尾高校、星稜高校、小松高校の5校から、約40名の生徒と10名の教員が参加しました。

本校からは、課題研究から、「レインボー植物をつくろう」、「葉脈にメッキしよう」、「油の鮮度」の発表と、生物部が「小松高校生物部の活動紹介」、「ダイコンの栽培と成長観察」、「ダイコンの発芽と初期成長に与える光の影響」の発表を行いました。

また、この大会の最後に、石川県高校生物部会の事務局の先生から、来年の8月に行われる第35回全国高等学校総合文化祭の自然科学部門（生物分野）に、石川県代表として本校の生物部の出場が決定しましたという連絡を受けました。県代表として恥ずかしくない発表ができるように研究を続けて行きたいと思います。

